

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	鳥栖市立弥生が丘小学校
-----	-------------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校目標「自ら学び、やさしく、たくましく生きる『弥生っ子』の育成」の具現化に向けて、それぞれの項目で成果が上がってきている。今後も成果が見られた取組等は継続して行うとともに、更なる改善策をとり課題の解決に向けて取組を進めたい。 ・タブレット端末の有効活用については、校内研究の算数科以外においても活用推進に向けてICT教育リーダーの元、活用方法について進めていきたい。 ・コミュニティスクールの良さを活かし、地域との連携をさらに強化し、職員から色々なアイデアを吸い上げ、よりよい学校を構築していく。
------------------	--

2 学校教育目標	<p>自ら学び、やさしく、たくましく生きる『弥生っ子』の育成 ～凡事徹底で、気持ちのよい学校にしよう～ 心をこめて</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>○心の教育の充実 ○確かな学力の習得 ○健康・体力作り ○特別支援教育の充実 ○安全・安心な学校 ○小中一貫教育(小小・小中連携) ◎開かれた学校(地域と共に)</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・校内研究の充実	○全教員が校内で研究授業を実施し、授業力向上に努める。 ○研究教科である算数において、学力調査(国・県)で県平均を上回る。	・算数科の研究授業等を通して、主体的・対話的な学びから深い学びにつながる授業展開の研修を深める。 ・授業づくりを中心に、タブレット端末の活用方法を探っていく。	A	・研究主題に沿って各学年が授業改善の視点をもって単元を考え研究授業を行っている。講師の指導助言を受け全職員で取り組んでいる。 ・学力調査では、国・県の平均を上回った。 ・ICTは授業展開の中で見通しやヒントなど指導工夫の手段として活用している。	A	・8月に全国学力・学習状況調査の結果をもとに研修を行った。誤答や課題をもとに改善策や指導方法を話し合い、共通理解を図りその後の指導に生かした。 ・校内研究と結びつけ、主体的な学びや対話的な学びを引き出す授業展開の工夫に取り組むことができた。 ・教材研究やICTを活用した指導工夫の工夫を行うことについて職員の意識が高い。	A	・先生方の指導がスキルアップされていて、児童も授業が楽しいという声を聞いた。個人差はあると思うが、頑張っている姿は頼もしい。 ・紙に比べるとタブレットの方が子どもたちも取り組みやすいと思う。 ・地域の催しに参加してくれる子どもは、学習や各種課題に意欲的に取り組んでいる。	
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケート「友達には優しくしたり、仲良くしたりできる。」の児童評価を90%以上。	・人権教育やUDの視点をもった学級経営や授業に取り組む中で、児童一人一人を大切に指導や支援を心がける。	B	・道徳やSSSTの教材を共有し、授業の質の向上を図っている。 ・保護者による道徳の指導への肯定的な意見が94.6%であった。	A	・保護者による道徳の指導への肯定的な意見が94.1%であった。 ・全クラスで参観日に道徳の授業を公開し、保護者に道徳教育について知ってもらう機会を設けた。今後、保護者参加型の授業や地域の方をゲストと呼ぶなど、家庭・地域と連携して道徳教育を進めていきたい。	A	・早期発見や早期対応に向けた取組の充実 ・いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	道徳教育推進教諭
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童70%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」として、肯定的な回答をした児童80%以上。	・子どものよさを見つけ、認め、伸ばし、褒めることを共通理解し、実践につなげる。 ・集団の中で自己肯定感や自己有用感が感じられるような役割や活動を学級やクラブ活動、委員会活動、学級行事等で仕組む。 ・キャリアパスポートを活用した学級活動の時間を意図的に仕組む。	A	・定期的ないじめ、生活に関するアンケートの実施や日々の見取りを通して、いじめや生徒指導上の問題の早期発見・早期対応に努めている。 ・保護者による肯定的な評価も90%を超えていて目標を達成できている。	A	・「学校は、いじめや生徒指導の問題等にきちんと取り組んでいる」の取組に対する保護者の肯定的な回答が90%を超えている。 ・毎月の生活アンケートの結果や日々の児童の見取りによって問題行動やいじめの早期発見・早期対応に努めることで事象の深刻化を防ぐことができた。 ・職員同士で気になる児童の情報交換を行ったことで、担任以外の職員が指導に当たる場面も度々見られた。	A	・いじめの現場を殆ど見たことがない。ただ不登校の児童が何名かいると聞いているので、これ以上増えないように希望する。 ・少しでも問題を解決できているのであれば安心できる。 ・子どもたちで話し合っ解決するように、打ち解け合うようになっほしい。 ・いじめが増加傾向となっている中、90%以上という数字はすばらしい。さらに95%を目指して努力していきたい。	6年担当 特別支援教育コーディネーター
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童65%以上。(1週間7日、1日60分以上)	○望ましい生活習慣の形成と食育の推進 ○朝食の残菜率は6%以下。	・児童の安全を第一に考えた上で、休み時間や昼休みの運動の機会を増やすために、新たに運動場の使い方マップを作成した。 ・県のスポーツチャレンジ「トップボールラリー」に積極的に取り組み、運動の機会をふやしている。	B	・11月の1週間で「早寝・早起き・朝ご飯」ができていた児童は6割弱。「早寝」が難しい。 ・毎日残菜率が6%以下であった。	B	・11月の1週間で「早寝・早起き・朝ご飯」については、今後も声掛けを継続していく必要がある。 ・給食の取組で、給食委員による献立の紹介や授業についての話、クイズ等を通して食への関心が高まっている。残菜率6%以下を十分に達成できている。	B	・1～2割の子どもがしっかりと朝食をとっていない様子が見えるが、殆どの子どもは大きな声でしっかりと挨拶してきてくれる。 ・家族みんなで食事をするところをいろんな話もできると思う。	食育・給食指導担当
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関して、教員の意識と専門性の向上	○特別支援教育やインクルーシブ教育に関する意識や知識の向上に努める。	・施設時刻を意識させるために、予定時刻の提示や職員への声かけを継続していく。 ・パソコンで共有で見られるような掲示板を導入し、連絡事項等は各自が確認できるようにし、職員会議、職員連絡会の時間の削減を図る。	B	・施設時刻の短縮や職員会議の時間の短縮については、継続して努力が必要である。	A	・「早寝・早起き・朝ご飯」については、今後も声掛けを継続していく必要がある。 ・給食の取組で、給食委員による献立の紹介や授業についての話、クイズ等を通して食への関心が高まっている。残菜率6%以下を十分に達成できている。	B	・1～2割の子どもがしっかりと朝食をとっていない様子が見えるが、殆どの子どもは大きな声でしっかりと挨拶してきてくれる。 ・家族みんなで食事をするところをいろんな話もできると思う。	教頭
●特別支援教育の充実	○問題行動の未然防止及び迅速な対応	○学校生活アンケート「学校は楽しい」の取組に「そう思う」「やや思う」の割合を合計88%以上。	・職員自身に退勤時刻の設定を行わせたり、金曜日以外にも管理職の定時退勤日を設けたりして、定時退勤の意識化、行動化を図る。	B	・退勤時刻を設定し、時間外業務の上限を意識しながら見直しをもって業務に取り組む職員が82.1%となった。 ・定時退勤日(金曜日)については、ほぼ18時施設ができていて、金曜日以外については、努力が必要である。	A	・「早寝・早起き・朝ご飯」については、今後も声掛けを継続していく必要がある。 ・給食の取組で、給食委員による献立の紹介や授業についての話、クイズ等を通して食への関心が高まっている。残菜率6%以下を十分に達成できている。	B	・1～2割の子どもがしっかりと朝食をとっていない様子が見えるが、殆どの子どもは大きな声でしっかりと挨拶してきてくれる。 ・家族みんなで食事をするところをいろんな話もできると思う。	教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関して、教員の意識と専門性の向上	○特別支援教育やインクルーシブ教育に関する意識や知識の向上に努める。	・特別支援教育に関する研修会の実施。 ・ケース会議の開催、関係者間で情報の共有をし、児童理解・支援につなげる。	B	・夏季休業中に特別支援教育研修会を実施した。 ・必要に応じて話し合いやケース会議を実施し、環境(教室・人・授業)整備に努めている。	A	・研修会等で特別支援教育やインクルーシブ教育に関する専門的な話を聞いた。市教育委員会の特別支援教育相談員やスクールソーシャルワーカーと連携したりすることで、児童の理解・支援につなげることができた。職員の特別支援教育に関する意識や知識の向上につながった。	A	・先生方のスキルアップが一番だと思います。子どもたちの支援は大変だと思うが、今まで通り頑張っていたらいいと思います。	特別支援教育コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開率90%以上。 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上。	・実践事例集をもとに、授業作り、教員の検討を行う。 ・参観日に、授業を公開する。 ・学級通信・学年通信・学校HPで教科「日本語」の取り組みを紹介する。	B	・各学年ごとに教科「日本語」の教材フォルダを作った。 ・保護者に向けて、教科「日本語」の授業公開をほとんどの学級で行うことができた。	A	・各学年ごとに教科「日本語」の教材フォルダを作ることで、来年度につなげることができた。 ・保護者に向けて、教科「日本語」の授業公開をほとんどの学級で行うことができた。 ・各学年で年間指導計画の見直しを実施した。	A	・各学年ごとに教科「日本語」の教材フォルダを作ることをこれからも継続し、次年度につなげてほしい。	
○不登校傾向や問題行動等への対応	○児童生徒が夢や目標を持ち、自身をよくよくしていることとするための教育活動	○マナー教室で、自分が頑張っていることを具体的に言える児童の割合90%以上	・日頃から、弥生が丘小学校の「めざす子どもの姿」について意識させる。 ・マナー教室に向けて、児童が頑張っていることを再確認させるとともに、意識の継続を図る。 ・体験活動では、活動の見直しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	A	・マナー教室では、ほぼ全員の児童が自分が頑張っていることを具体的に答えることができた。	A	・マナー教室では、ほぼ全員の児童が自分が頑張っていることを具体的に答えることができた。 ・体験活動では、準備の段階から児童に見通しをたてて活動にあたらせ、終了後も振り返りを行って、行動の備づけを行った。	A	・マナー教室で自分が頑張っていることを主張できる子が多くなったと聞いて安心している。	主幹教諭
○不登校傾向や問題行動等への対応	○問題行動の未然防止及び迅速な対応	○学校生活アンケート「学校は楽しい」の取組に「そう思う」「やや思う」の割合を合計88%以上。	・校内体制を整え、学期1回以上、検討会や支援会議を設ける。また、保護者には、支援的な立場での相談体制を受け付けて、問題の早期解決につなげる。 ・生徒指導連絡会による学校全体での情報共有と指導の統一を行う。	A	・生徒指導連絡会を定期的に開催し、全体での情報共有と指導の統一を行っている。 ・アンケートでは94.2%の児童が学校に楽しく通っているとの回答が得られた。	A	・生徒指導と教育相談の打ち合わせを毎月確実に行うことで、検討会や支援会議につなげ、連携のとれた対応につなげることができた。 ・関係職員での支援会議を行い、支援体制を整えたことで不登校傾向児童への対応ができた。担任だけに任せず、複数の職員で声をかけ、対応でき、組織的な対応が実現化できた。 ・アンケートでは94.1%の児童が学校に楽しく通っているとの回答が得られた。	A	・少しでも不登校者を減らすことに努力してほしい。	教頭 主幹教諭

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学校目標「自ら学び、やさしく、たくましく生きる『弥生っ子』の育成」の具現化に向けて、ほとんどの項目で成果が上がってきている。今後も、成果が見られた取組等は継続して行うとともに、取組内容や成果指標を見直しながらさらなる改善策をとり、課題の解決に向けて取組を進めたい。 ・タブレット端末の有効活用については、ICT教育リーダーを中心にミニ研修会を行ったり、業者等の説明会を実施したりして活用の幅が広がってきている。今後は、さらに有効活用ができるように職員の知識や技能を高めるようにしていきたい。 ・学校運営協議会や地域学校協働活動推進委員、また、PTAと連携しながら各学年に体験活動を実施することができた。今後も、コミュニティ・スクールの良さを活かし、地域との連携をさらに強化し、よりよい学校を構築していく。
----------------	---